

硫黄島で感じたこと

農学研究科 修士1年 河内雅弘

私は今回1泊2日の硫黄島での研修に参加した。私はサークル活動で色々な離島を訪れたが硫黄島はその中で最も人口が少なく120人で、人が利用できる施設などもほとんどなかった。また島民の方から聞いた話は「この島には～はない、できない」「～するのが大変」という話が多い印象だった。学校は小、中学校が一緒になっており生徒数はおよそ20名と少なく、島に常駐医はおらず本格的な治療や検査はできない。島の発電所も3人しかおらず16時間以上連続で勤務することもあるという。携帯の電波はほとんど通じず、店も一つしかなくそもそもお金を使う場所がほとんどない。特に婦人会の方から聞いた話が印象的で、婦人会の仕事はお祭りでの踊りやイベント時の炊き出し、依頼を受けてのお弁当作りなど多忙であるらしい。さらに島民が少ないため婦人会のメンバーの多くは婦人会の活動に加え島の役員、PTAなどを兼任しており、みんな大変忙しいという話だった。これらの話だけ聞けば島での暮らしはとても不便で、良い面など自然が豊かなことくらいであり人によっては良い事など何もないように感じるかもしれない。しかしそのような暮らしの中にある島の人々はいつも笑っている印象で、誰かとすれ違えば必ず声をかけ、コミュニケーションをとっていた。硫黄島では物や人が少ないからこそ、その分島民みんなで補い合い、助け合う必要があるのだろう。そうして支えあって暮らしていく中で、絆が生まれ笑顔が多く、みんなが支え合うようなコミュニティになったのではないかと思う。発展していけば様々な道具や施設があふれ、日々の暮らしは便利で快適になっていくだろう。発展していけば、人の手を借りずとも道具や技術を使い一人でできることが増えていくだろう。しかしそれは人と人の関わり合いがどんどん減っていくことでもある私は思った。私は地元でも鹿児島でも婦人会や青年会の活動など聞いたこともない。それは私の日々の暮らしが発展のおかげで便利になり、それらの活動がなくても十分快適に暮らしていけるからだと思う。発展していけば便利で快適になることが多くメリットは大きいですが、その分人と人との繋がりや支え合いが希薄になっていくということでもあるのではないかと、硫黄島の人々を見て感じる事ができた。発展がいけないことだとは決して思わないが、私はみんなで支え合い暮らす硫黄島のような生活もよいと感じ、無理に発展に向かわなくてもよいのではないかと思う。

また硫黄島で私が最も深刻に感じたのがごみ問題だった。硫黄島には山の一角に分別もなくゴミが不法投棄された場所があった。人が少なく自然が豊かで美しい島であったため、大小さまざまなゴミが散乱している光景はとても目立っているように感じた。今回島を案内してくれた大岩根さんによれば島には決まったゴミ捨て場がなく、しょうがなく不法投棄をするしかないのであり、かなり昔から島民はその場所をゴミ捨て場としていたそうだ。昔は土にかえるものがほとんどでありあまり問題はなかったが、近年はプラスチックや空き缶などが増えている。これはそもそも島に決まったゴミ捨て場がないことがまず問題だと思う。昔から使っていたゴミ捨て場があるのなら新たにゴミ捨て場を作る必要性を見落としがちかもしれないが、昔と違いゴミが多様化してきた今新たな、き

硫黄島で感じたこと

農学研究科 修士1年 河内雅弘

ちんと分別して捨てるようなゴミ捨て場は必要不可欠だと思う。また昔からのゴミ捨て場は山の上にあったので新たに人里の近くにゴミ捨て場を作れば利便性も向上するだろう。

今回の硫黄島での生活は私が普段送っている生活と大きく違い、何より物が少なかった印象だ。しかし硫黄島では非常に楽しく、また特に不便も感じることなく生活で来た。私は普段ものに囲まれて生活しているが、物がありすぎて、その中には無駄なものも多くあるのではないかと感じた。今回島で感じたことを忘れずに生活していきたいと思う。